

3. 後期に向けての方向性（重点的に取り組む事項）

(1)がん予防の推進（1次予防）

施策の方向性	後期の目標	重点的に取り組む事項	目標値
①目や心に留まる啓発活動	①たばこは様々ながんのリスクであるとのエビデンスが確立しているので、たばこ対策を強化する。	①オリンピックに向けて、各種法整備が進むと考えられるので、それを活用してたばこ対策を推進する。 ②公共施設の施設内禁煙(できれば敷地内禁煙)を進める。 役場各支所・公民館・自治会館・体育文化施設 等 ③まずは行政職員の喫煙率を下げるとともに、禁煙を希望しておられる方が禁煙に結びつく働きかけを行う。 ④職域と連携し、職場での禁煙・分煙対策を推進する。 ⑤電子たばこについての正しい情報提供を行う。 (出前講座等の活用)	□未成年の喫煙経験率(小学5・6年生) 男 0% 女 0%
②たばこ対策の推進			□喫煙率(20～69歳) 男 22.0% 女 0.7%
③生活習慣の改善			□学校の敷地内禁煙 100%
④子宮頸がん予防ワクチン接種の推進	②厚生労働省から出されたがんのリスク要因をもとに、がん予防の啓発と生活習慣改善に取り組む。	①厚生労働省から出されたがんのリスク要因によると、HPV・ピロリ菌・肝炎ウイルス(B型・C型)等の感染症、生活習慣の中では喫煙(受動喫煙を含む)・飲酒・肥満・塩分ががん予防のエビデンスがほぼ確実視されている。 ②各種メディア・保健活動の場・会議等いろいろな場を活用し、がん予防の啓発に努める。 ③健康長寿おおなん推進会議等を中心に、生活改善の取り組みを全町で展開する。	□公民館の敷地内禁煙 増やす
⑤職域との連携強化			□自治会館の施設内禁煙 増やす
⑥学校保健との連携強化			□禁煙治療実施機関 町内1か所

(2)早期発見・早期治療（2次予防）

施策の方向性	後期の目標	重点的に取組む事項	目標値
①検診受診率・精密検査受診率向上を目指した効果的集団検診・施設検診(対策型がん検診)の充実	①対策型がん検診の中で優先順位をつけて、効果的・効率的ながん検診を実施する。 ②任意型検診の効果検証を行い、死亡率削減効果のある検診を実施する。	①年齢調整死亡率の高い、乳がん・子宮がん検診を優先的に取り組む。 ②胃がん・大腸がん検診は精密検査まで受けることを前提に検診を実施する。 ③地区担当保健師と連携し、精密検査受診率100%を目指す。	□がん検診受診率(40～69歳) □がん検診受診率(40～59歳) *ただし子宮がんについては20歳以上P5参照
②早期発見・早期治療を目指した任意型がん検診の積極的活用			□精密検査受診率 各検診とも90%

③肝炎ウイルス検査の受診促進	③肝がんが多いことから、肝炎対策を徹底する。	①肝炎検査対象者名簿を整備し、未検査者に対する勧奨を行う。 ②陽性者に対しては県の補助制度を紹介し、治療に結びつく働きかけをおこなう。	
④関係機関との連携	④医療機関・検査機関等との連携を強化する。	①精度管理を行い、効果的・効率的な検診を実施する。 ②邑智病院との検討会を行い、効果的な検診の実施方法について検討する。	

(3)がん患者・家族等への支援（3次予防）

施策の方向性	後期の目標	重点的に取組む事項	目標値
①がん相談支援体制の充実	①邑智病院緩和ケアチームと連携し、相談支援体制づくりに取り組む。	①邑智病院緩和ケアチームを中心に、患者・家族の相談・支援体制を整えていく。	□「がん情報提供促進病院」の医療機関数 1か所
②がん患者団体等への支援		②個々の相談・支援から、どのような支援体制が必要かを検討する。	□「がん情報提供促進病院」の認知度 60%
③地域の医療・介護サービス提供体制の構築	①地域包括ケア体制構築の中にがん患者フォローの視点を盛り込む。	①地域包括ケア体制構築の話し合いの中で、高齢者だけでなくがん患者やその家族支援という視点を持ちながら検討を行う。	□「がん相談支援センター」の認知度 60%